

3
March

俳句

(2 0 2 3)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
11	5	1
）	）	）

3月・弥生

草木がいよいよ生い茂る月という意味。

※「弥」には、いよいよという意味、「生」には生い茂るという意味があります。

季節：仲春（ちゅうしゅん） ※啓蟄から清明の前日まで。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

三月やユニクロバーゲン冬商品
三月の声がかかれど引きこもる

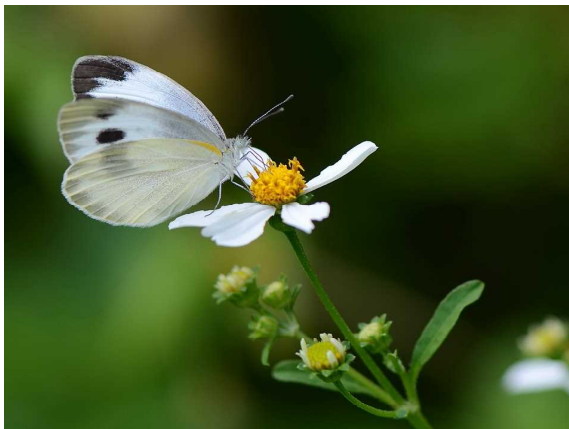
初蝶やつかず離れず一対で
標本の蝶を飛ばせば平和来る

ひな祭り一人の夕餉牛井屋

春の雪薔薇のつぼみを眠らせる
春の雪誰かにライン迷惑か
春の雪眠たいだけの一日や

ぼたん雪王手次々我が余命
ぼたん雪ぼたりぼたりと我が余命

地虫出ず神や仏や慈悲ありて
ツツコミにボケがいてこそアマリリス



よく見れば素朴に咲いて桃の花
桃の花人みな笑う花見かな

スニーカー春泥汚れ戸惑いて
春泥や降圧剤を嚙んでみる

踏むまいど踏んではならずたんぽぽや
草野球外野に多くのたんぽぽが

ゆく雁やパソコン画面あれやこれ
コツコツとボチボチ俳句黄水仙

雪柳泥鰯も鯉もまだ眠る
辛夷咲くコルトレーンもたまに聴く

世の常か心みだるる紅椿
官能にあやしき刺激紅椿
一人静しづかしずかと歌いけり



土佐水木咲いてよさこい今年また

紅馬酔木何を恥じらい色めくや
越辺川なにはともあれ春の川

恋雀戦ふことを放棄せず
鳥の恋過疎の村こそ楽園か

落椿ため息ひとつまたひとつ
椿落ちそこは地獄か天国か

さまざまにさまざまなこと桜咲く

断捨離をひとつ進めて桜咲く

桜咲く名もなき寺社を巡礼す

後先の分別もなく桜咲く

桜咲く丸ノ内線茗荷谷

知る限り命限界初桜

不器用な遺伝子吾に花の冷え



幸不幸それはさておき花見かな

春暁やブログ投稿一仕事

春暁の光を呼んでシクラメン

春暁や羊の赤子草木にも

春暁の鳥取砂丘にピカチューが

すいすいと飽きずに伸びる菖蒲の芽

春の星名前は知らぬ瞬きぬ

春の星言いにくきことあれこれと

平凡に日々を過ごして春の月

春雷にしぼしパソコン休憩し

弘法もパソコン選ぶ春の雷

三月尽腰はじんじんあり暮らす

三月尽日々のスピード増しにけり



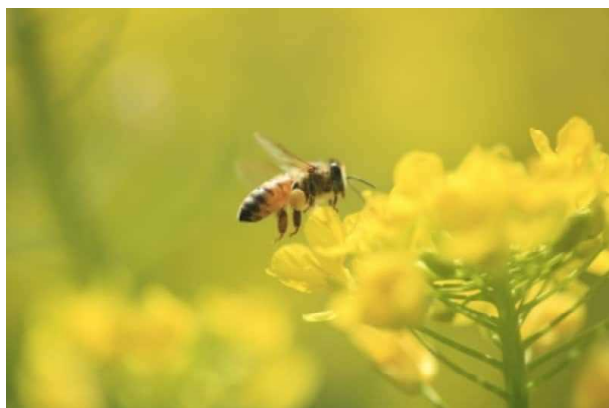
モーロク俳句

三月やモーロクすれど恋芽ばえ
初蝶もいつかモーロクその日まで

モーロクしむかしにかえり雛の夜
モーロクしたんぽぼ花に嫉妬する
たんぽぽは咲けどモーロク孤独なり

降れ降れとモーロクすれど春の雪
ぼたん雪モーロク吾の余命かな
モーロクしふるふる最後春の雪
モーロクし吾のこの道春の雪
モーロクしふと気づいたら春の雪

啓蟄やモーロクすれど前を向き
啓蟄やモーロクすれどまだにんげん



木の芽雨きのうの続きモーロクし
木々芽吹く吾はモーロク進みたる
庭木みな芽吹いて吾はモーロクす
モーロクし聞けど聞こえず木の芽風

すり切れてモーロクすれど水温む
モーロクしされど米研ぐ水温む

モーロクす良きも悪きも春めきて
春めくとつぶやく男モーロクし

咲き満ちて雨の辛夷やモーロクす
モーロクし辛夷は白く高すぎる
モーロクし山河無縁に花辛夷

モーロクし墮落極まる春炬燵
モーロクし魂抜けて春炬燵



しやぼん玉モ一ロクせずとも消えるのみ
モ一ロクしすかんぽの味忘れけり

モ一ロクし明るく緩く連翹や
モ一ロクしめんどろ男春の雷
モ一ロクし脳が覚醒春の雷
春雷もどこ吹く風とモ一ロクし

あたたかや皺ばかり増えモ一ロクす
しやぼん玉モ一ロクせずとも消えるのみ

モ一ロクしすかんぽの味忘れけり
モ一ロクし明るく緩く連翹や

モ一ロクしめんどろ男春の雷
モ一ロクし脳が覚醒春の雷
春雷もどこ吹く風とモ一ロクし



あたたかや皺ばかり増えモロクす

モロクし光と影やつばくらめ
モロクし曇り空なる彼岸かな

モロクしすべて過去なり桜咲く
モロクしまたひとつ捨て桜咲く
モロクし誰を信じる桜咲く
モロクし通過点過ぎ花は咲く
モロクし桜咲けどもすべて過去
モロクし今更ながら花を待つ
うらうらとモロクすれど初桜

モロクし勝ち負け忘れ桜餅
モロクし春分の日をやわらかく

モロクし捜し物して春の月
モロクし眠りは浅く春の月



モーロクしこれは芝居か春燈下
モーロクし壊れゆくなり春の虹
モーロクし一言届かぬ春の虹

モーロクしおぼろおぼろに朧かな
朧夜におぼろなりけりモーロクし
月おぼろ頭もおぼろモーロクし

モーロクし魂もなく桜の夜
モーロクし永劫途中花を見る
花を見る楽しみ失せしモーロクす
無限かなモーロク無限桜咲く

春の川いずれモーロク海に消え
春の川ただ覗いてるモーロクし

春暁やいずれ死にゆくモーロクし
春暁や夢のきれぎれモーロクす



蝶に問うモロクの先その先を
モロクし望みも捨てて月おぼろ
朧月血圧高くモロクす

モロクしされど爪伸び三月尽
諦めて見ざる聞かざる三月尽



たべもの俳句

沖繩に春が訪れ中身汁
お吸い物やはりハマグリ王道で

ちらし寿司千切り卵ミモザ咲く
ハマグリに負けじホンビノ名物に

米を研ぐ指も健やか水温む
啓蟄にまわる円卓中華店

春菊を花椒ソースで生サラダ
根菜で無病息災お事汁

カニカマも加えふわとろニラ玉を
たっぷりの釜揚げしらすごはんのせ



生わかめ豆腐味噌汁定番で
猫飯といえど浅蜷はたつぷりと

シヤキシヤキのわけぎをぬたに辛子みそ
具だくさん菜の花チョイスカルボかな

ミモザ咲き夫婦のお昼駅弁で
頑張つてハッシユドビーフ木の芽雨

春キヤベツだし酢絶妙味加減
大黒屋えび天井で彼岸入り

若菜より根っこが大事セリ鍋は
セリ鍋やほろほろ苦さ癖になり

花咲いて梅か昆布かにぎり飯
おむすびは万能であり春ならん
おにぎりに桜吹雪をとじこめて



もてなしは大盛りしたる浅蛸汁

残酷に小蟹も加へ浅蛸汁

浅蛸汁運が悪くて砂を噛む

豚肉とアサリを蒸してレモンふる

花冷えにたこ焼き作りお昼かな

桜冷え東坡肉をほろほろに

江戸情緒花見の後の日本蕎麦
二人して花見弁当巣ごもって

壺焼を求め房総バスツアー
残酷を一時忘れて壺焼きを

隅田川散歩草餅桜餅

たつぷりとあたたかポトフ花寒や

カラフルに軽い煮込みで春おでん

ゼンマイの水煮でナムルやみつきに



